

令和4年度 学校評価計画

小田原市立（国府津小）学校

項目	共通項目 (教育指導の重点より)	学校における取り組み	
		学校の実践目標	具体的方策（※3つ程度）
「学力」	授業を広く公開することに努めるとともに、ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業づくりと豊かな学び合いによる思考活動の充実により、主体的に学びに向かう力と課題解決力を育む。 「主体的・対話的で深い学び」に向けて、ICTの効果的な活用方法を追究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業力向上をめざし、校内研究などに関わる授業公開に積極的に取り組む。 身に付けさせたい力を明確にし、豊かな学び合いを意識した授業計画を立て、実践を積む。 授業及び家庭学習での効果的なICTの活用法について、職員相互で情報交換を行う。
「豊かな心」	教育活動全体を通じて人権を尊重し、一人ひとりの命を大切にすることを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 自他のよさを認め、相手の気持ちを考えて行動できる心を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちの良い挨拶のできる子、感謝の気持ちをもてる子の育成を図り、生活目標などに取り入れる。 自己有用感の醸成、コミュニケーション能力の向上をめざし、認め合える学級集団づくりに取り組む。 たてわり班を活用し、異学年交流を通して思いやりの心を育む。
「健やかな体」	運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるような授業づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意欲的な体力づくり活動を促進し、体力の向上をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励と児童会の体育的行事等の充実により体力の向上を図る。 児童のめあてを体育科授業の中心に据えながら、運動の楽しさやできたときの喜び、達成感を味わえるような授業を実践する。 食育の授業や学校保健安全委員会への取組の機会を生かし、健康の大切さを実感できるような教育活動を行う。
児童生徒指導・ 支援の充実	子ども一人ひとりの心に寄り添った支援を心がけ、粘り強い指導に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> 児童指導について、全職員での組織的指導体制を構築し、いじめ・不登校の未然防止と早期解決を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週月曜日の打ち合わせや児童指導支援委員会において、配慮を要する児童や児童指導上で気になる点について共通理解を図り、対応しなければならない事案に対してはチームとしての対応策を検討する。 不登校や登校しぶりの解消に向けて、教育相談コーディネーターを中心に、担任一人が抱え込むことなく組織的に支援できる体制を作る。
共に学び共に 育つための 教育の推進	支援教育の充実を図るとともに全ての子どもができるだけ同じ場で学ぶ環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援教育の推進と温かい人間関係づくりを進め、インクルーシブ教育の更なる推進をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に担当から出された「インクルーシブな学校づくりを進めるための要素」や「支援教育の考え方を生かした学級経営」等をもとに、インクルーシブ教育・ユニバーサルデザインを意識した教育活動を積み重ねる。 支援級と通常級の児童の交流を計画的・効果的に推進する。
安心・安全な 学校づくり	より良い教育環境を整えるとともに、定期的な安全点検を実施し安全管理の徹底に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検の実施と施設・設備の改善により、安全で快適な教育環境の整備を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検の効果的な実施と、点検結果に基づく迅速な改善を実施し、安全・安心な教育環境の維持を行う。 定期的な安全点検以外にも、日ごろから学校生活を過ごしたり、校内を巡視したりしていく中で、特に事故につながりそうなものについては、管理職に報告をして早急に対応するなどの意識を全職員がもつ。

令和4年度 学校評価報告

小田原市立（国府津小）学校

項目	共通項目 (教育指導の重点より)	評 価	改 善 策
「学ぶ力」	授業を広く公開することに努めるとともに、ICTを積極的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 「一人1回は公開授業」を合言葉に、全教員が校内研究などで授業公開に積極的に取り組んだ。校内研究では、低・中・高学年ごとに「目指す学び合いの姿」を設定し、意識して取り組むことで、発達段階に応じた学び合いの姿が多く見られるようになった。 ITリーダーを中心に校内研修の場を設定した。ICT支援員の協力もあり、様々な授業で児童がICTを積極的に活用している。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究では、「学び合いを通して思考が深まったと言えるか」ということに焦点を当て、児童の見取り方を共有しつつ、協議を通して、教員の児童を見取る力を高めるとともに、指導と評価の一体化を意識できるような場を設定する。 国府津小の年間指導計画の中に、ICT活用をきちんと位置付け、確実な活用を図る。
「豊かな心」	教育活動全体を通じて人権を尊重し、一人ひとりの命を大切にすることを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶」「感謝」などを全校の生活目標に取り入れることで、目標の具現化も図られたが、生活目標に掲げている時期が過ぎると、尻すぼみする傾向がある。 たてわり班活動の機会を定期的に設けることで、異学年の交流も盛んになり、思いやりの心が育まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、自他のよさを認める場を各学級で位置付ける。 生活目標に掲げる時期が過ぎても、大事なことは継続できるような意識付けを図る。 全校朝会に、人権に関する講話を位置付ける。
「健やかな体」	運動の楽しさや喜びを味わったり、健康の大切さを実感したりすることができるような授業づくりに努めます。	<ul style="list-style-type: none"> 外で遊んでいる児童は、比較的多い方である。一方で、校舎内で過ごすことを好む児童も一定数いる。 栄養教諭を中心とした食育の授業をほとんどの学年で実施し、学校保健委員会でも食育を取り上げ、食の大切さ、栄養のバランスを意識している児童は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びの奨励と児童会の体育的行事等の充実を図る。 食育年間計画に基づく食育授業の確実な実施を図る。
児童生徒指導・ 支援の充実	子ども一人ひとりの心に寄り添った支援を心がけ、粘り強い指導に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する児童や児童指導上で気になる点について、情報交換の場を設けたが、学年団で対応することはあっても、全校でチームとして対応するという状況までにはなかなか至らなかった。 教育相談コーディネーターを中心に、「はーもにい」をはじめとした関係機関と連携し、対応を協議する機会は得られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童指導支援委員会や拡大児童指導委員会の活用を図るとともに、毎週の打ち合わせ時の情報交換を大事にし、話題に上がったことの早期解決・早期対応に組織で迅速に動くような体制を作る。教育相談コーディネーターを中心としたケース会議との連携も図っていく。
共に学び共に 育つための 教育の推進	支援教育の充実を図るとともに全ての子どもができるだけ同じ場で学ぶ環境を目指します。	<ul style="list-style-type: none"> 担当から出された「インクルーシブな学校づくりを進めるための要素」をベースとして、支援級と通常級の児童の交流が計画的・効果的に行うことができた。 年度途中より、個別支援の体制を整えようとしたが、児童や保護者への周知が不十分であったためか、思うように行うことができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初より、保護者・児童への周知、呼びかけを行い、個別支援の体制を整えていく。 全校朝会に、インクルーシブ教育に関する講話を位置付け、支援級や個別支援に対する偏見等がなくなるように努める。
安心・安全な 学校づくり	より良い教育環境を整えるとともに、定期的な安全点検を実施し安全管理の徹底に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検の結果に基づき、校内で対応できることは早めに、そうでない場合は市教育委員会と連携をし、なるべく迅速に完全できるようにした。 職員には、日頃より気になるところは管理職に報告をして、早急に対応しようとするという意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全点検の確実な実施と迅速な対応を意識する。 ヒヤリハットの共有を図る。